

5-1 中心部地域

5-2 西部地域

5-3 北部地域

5-4 南東部地域

【地域区分の考え方】

行田市国土利用計画（S60.12）及び現行の都市計画マスタープラン（H10.3）の地域分けを基本に、駅勢圏や地域コミュニティのまとまり、市街化区域・市街化調整区域の別、地形地物などを考慮し、以下のとおり4つの地域に区分しました。

1. 中心部 地域	忍1・2丁目、天満、水城公園、城南、本丸、矢場1・2丁目、城西1・2丁目、大字忍、行田、宮本、中央、旭町、向町、佐間1～3丁目、緑町、駒形1・2丁目、谷郷1丁目、谷郷2・3丁目の一部（市街化区域内）、大字谷郷の一部（市街化区域内）、栄町、桜町1～3丁目、富士見町1・2丁目、長野1～5丁目、大字長野の一部（市街化区域内）、大字下忍の一部（市街化区域内）、藤原町1～3丁目、大字若小玉の一部（市街化区域内）
2. 西部 地域	城西3～5丁目、持田1～5丁目、大字持田、大字前谷、西新町、杏里山町、清水町、門井町1～3丁目、押上町、棚田町1～3丁目、深水町
3. 北部 地域	大字斎条、大字和田、大字長野の一部（行田市土整備事務所付近の市街化調整区域内）、谷郷2・3丁目の一部（市街化調整区域内）、大字谷郷の一部（市街化調整区域内）、大字上池守、大字下池守、大字皿尾、大字中里、大字小敷田、大字荒木、大字小見、大字白川戸、大字須加、大字下中条、大字北河原、大字酒巻、大字南河原、大字犬塚、大字馬見塚、大字中江袋
4. 南東部 地域	大字佐間、大字長野の一部（市街化調整区域内）、大字下忍の一部（市街化調整区域内）、大字堤根、大字樋上、大字埼玉、大字野、大字渡柳、大字利田、大字若小玉の一部（市街化調整区域内）、大字下須戸、大字小針、大字藤間、大字関根、大字真名板



5-1 中心部地域

1. 地域の概況

秩父鉄道行田市駅の南側を中心に商業地が広がり、その周囲を取り囲むようにして住宅地が形成されています。また、忍城址周辺には市役所などの公共施設が位置しています。東部には工業団地が整備されており、本市の産業の拠点となっています。ほぼ全域が市街化区域となっています。

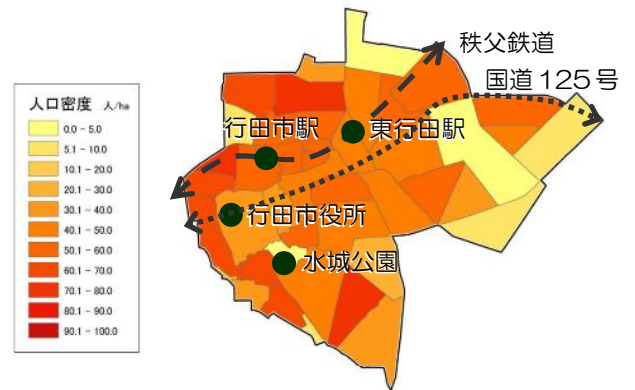


■地域の基礎指標 H22国勢調査および都市計画基礎調査

面積	736.80 ha	(6,737ha)
市街化区域面積	697.16 ha	(1,160ha)
市街化調整区域面積	39.64 ha	(5,577ha)
人口	33,179 人	(85,786 人)
世帯数	12,753 世帯	(30,630 世帯)
世帯当たり人数	2.6 人/世帯	(2.8 人/世帯)
人口密度	45.0 人/ha	(12.7 人/ha)

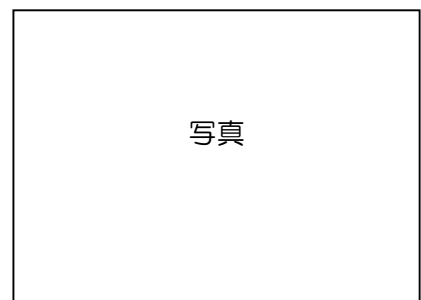
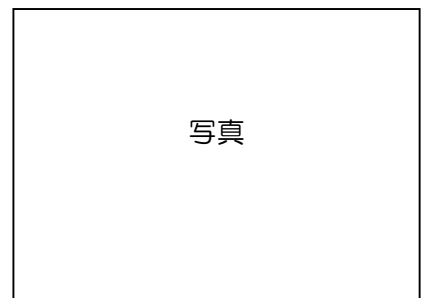
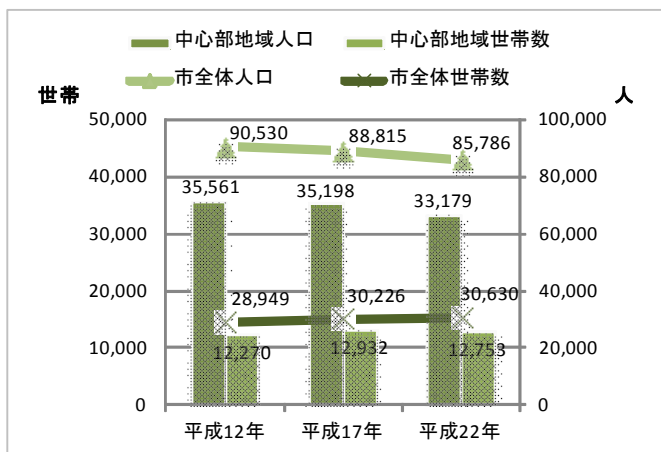
() 内は市全体の数値

■町丁目別人口密度 H22国勢調査



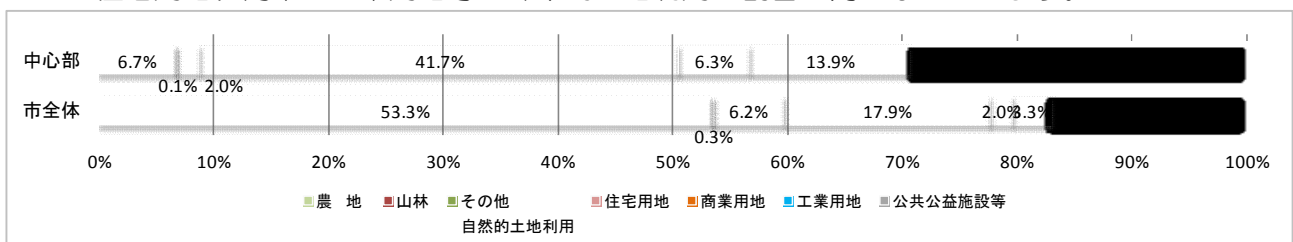
■人口世帯数の推移 H22国勢調査

人口は平成17年から平成22年にかけて3.8%の減少となっており、市全体の減少率(3.4%)を上回っています。世帯数は微増傾向にあります。



■土地利用の状況 H22都市計画基礎調査

住宅用地、商業・工業用地等の都市的土地利用の割合が高くなっています。



2. 地域の課題

将来都市像 「水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ」

基本目標

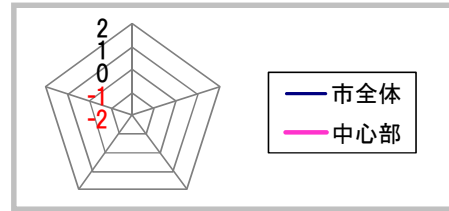
- 1 行田らしさが光るまち
- 2 笑顔で暮らす、住みよいまち
- 3 笑顔あふれ、にぎわいを生むまち

- 4 みんなで
つくる
協働のまち

	中心部地域の課題	現状に対する市民のご意見・満足度 (○良い点、△問題点)	
水と緑と 歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●忍城址・足袋蔵などの保全・活用による歴史的街並み景観の形成 ●水や緑を身近に感じられる環境の創出 ●市街地を流れる主要な河川・水路の水質浄化 	地域別懇談会 でのご意見	△忍城址や足袋蔵などの歴史的建造物が点在しているが、あまり歴史を感じられる環境ではない。 ○水城公園が良く整備されており、景観が良い。 △河川や水路が通水されていない時期に水質が悪化する。
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地における都市機能の集約とまちなか居住の誘導 ●歩いて暮らせるまちづくりの推進 ●密集住宅市街地における防災性の向上 	地域別懇談会 でのご意見	○公共公益施設が整っている。 ○南大通線が開通し、市内循環バス路線が充実して利便性が高まった。 △南北方向の道路網が充分ではない。 △高齢者や子どもが安心して歩ける歩道が整備されていない。 △商店街や幹線道路沿いには老朽家屋や空き家がある。
にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な交流拠点の充実 ●中心市街地の活性化による賑わいの創出 ●忍城址・足袋蔵など歴史資源の保全・活用とネットワーク化 ●歩いて楽しめる観光基盤の整備 ●自転車利用を促進する環境整備の推進 	地域別懇談会 でのご意見	△商店街に空き店舗が多く、活気がない。 △休憩施設や来訪者向けの飲食店などが少ない。 △観光案内のサインが不十分で分かりづらい。 △忍城址や足袋蔵、水城公園などの地域資源が繋がっておらず回遊性がない。 △自転車道が整備されていない。
		市民アンケート 調査での地域の満足度評価	○ゆとり、うるおい：「自然の身近さや豊かさ(+0.7)」や「歴史的建造物・文化財などの保全・活用(+0.4)」について評価が高い。 ○まちづくりの施策：「景観の形成(+0.4)」について比較的评价が高い。
		市民アンケート 調査での地域の満足度評価	○居住環境：「日当たりや風通し(+1.1)」の評価が高い。 ○暮らしやすさ：「日用品の買い物の利便性(+0.8)」や「幹線道路の整備状況(+0.8)」について評価が高い。
		市民アンケート 調査での地域の満足度評価	○コミュニティ：「コミュニティ施設の整備状況(+0.5)」について比較的评价が高い。

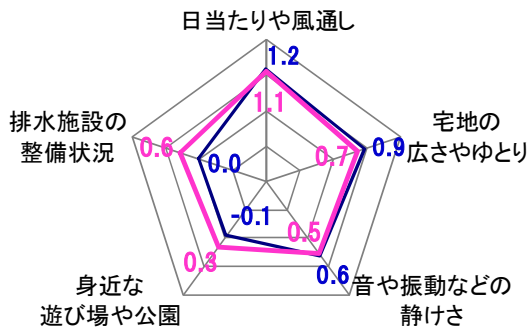
※ 第2章～4章にかけて市の現状と課題を整理し、将来像・基本目標を位置付けました。ここでは更に地域別懇談会でのご意見や市民アンケート調査の結果もふまえて、地域の課題を整理しました。

市民アンケート調査の地域別集計結果

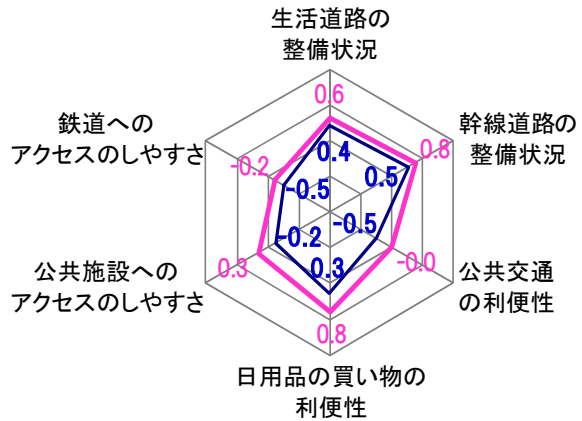


◆現状のまちづくりに対する満足度

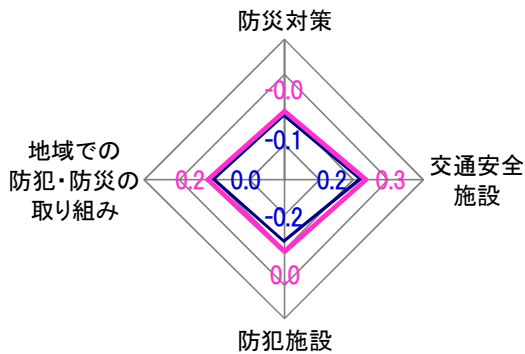
【居住環境について】



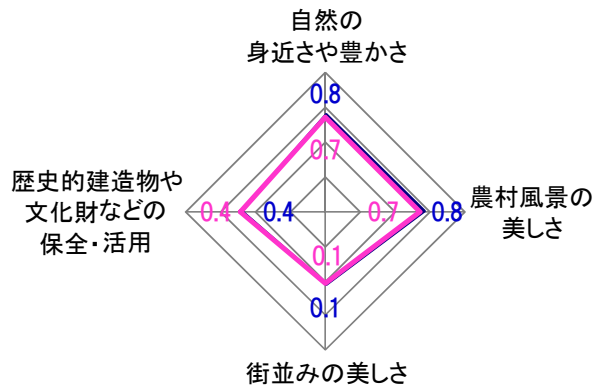
【暮らしやすさについて】



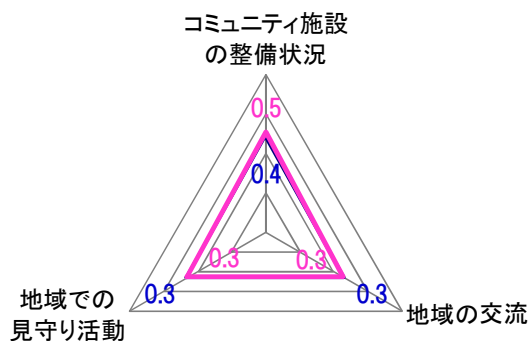
【安全・安心について】



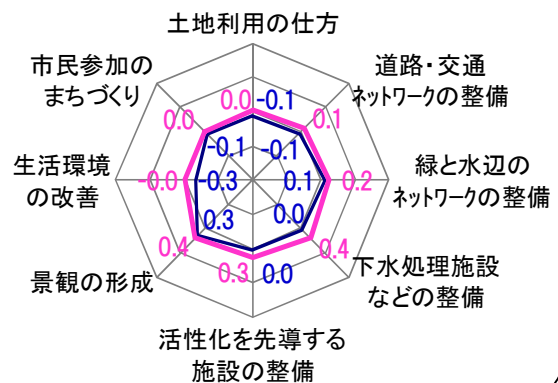
【ゆとり、うるおいについて】



【コミュニティについて】



【施策について】



※グラフの数字は、各項目に対する満足度の評価結果を、「満足」：2点「ほぼ満足」：1点「やや不満」：-1点「不満」：-2点として合計し、回答者数で割ったものです。-2～+2の範囲で、プラスの数字が大きいものほど満足度が高く、マイナスの数字が大きいものほど満足度が低いこととなります。

3. 地域の将来像と基本方針

中心部地域では、市全体の活性化につながる中心市街地の再生や、歩いて暮らせるまちづくりの実現、地域資源を保全・活用したまちづくりの推進が求められています。

まちづくりの現状とこれらの課題をふまえて、中心部地域の将来像とまちづくりの方針を次のように位置付けます。

中心部地域の将来像

水と緑と歴史を身近に感じることができ、
必要な都市機能が揃った、
歩いて暮らせる便利なまち

中心部地域のまちづくりの方針

1) 水と緑と歴史を活かしたまちづくり

- ・水と緑が一体となった水城公園や忍川を保全・活用した水辺空間の創出、忍城址や足袋蔵などの地域資源を保全・活用した美しい街並み景観の形成などにより、「水」と「緑」と「歴史」を一体的に感じられるまちづくりを進めます。

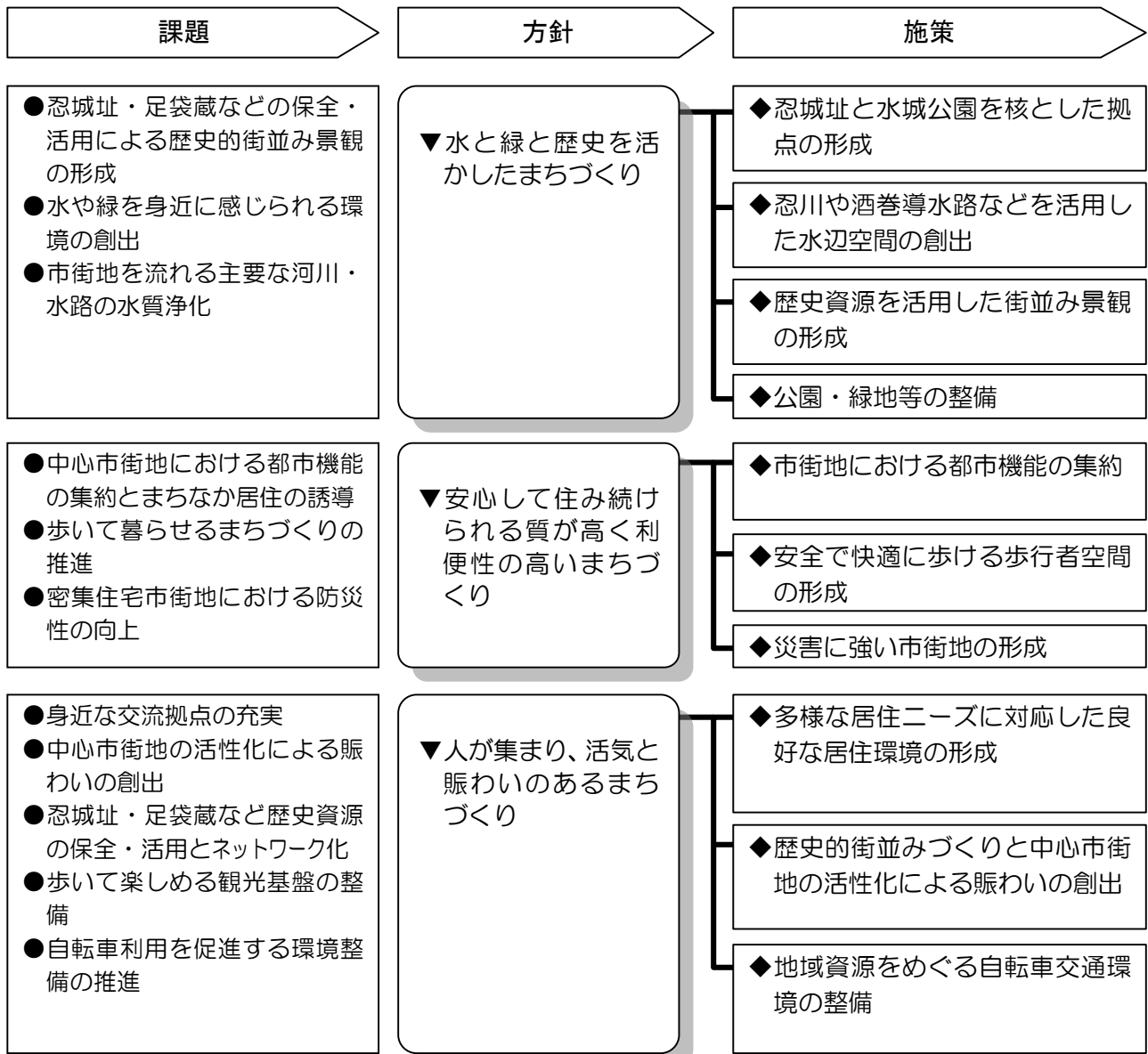
2) 安心して住み続けられる質が高く利便性の高いまちづくり

- ・秩父鉄道行田市駅周辺の中心市街地では、生活に必要な公共公益施設、商業サービス施設、医療・社会福祉施設などの都市機能が集約された、歩いて暮らせる質の高いまちづくりを進めます。
- ・秩父鉄道東行田駅周辺は、日常生活を支える身近な店舗など生活支援施設の充実を図り、地域住民の生活拠点となるまちづくりを進めます。

3) 人が集まり、活気と賑わいのあるまちづくり

- ・都市機能の集積とあわせて、多様な居住ニーズに対応できる居住環境を形成することにより、まちなか居住の促進を図ります。
- ・商店街の集約や空き店舗の活用などによる活性化を図るとともに、街角ギャラリーなどの芸術文化創造・発信機能や、観光案内機能の充実により、更に多くの人が集まる魅力あるまちづくりを進めます。

中心部地域の体系図



4. 施策の内容

方針1：水と緑と歴史を活かしたまちづくり

①忍城址と水城公園を核とした拠点の形成

- 水と緑の拠点の一つである水城公園と、本市の代表的な歴史資源である忍城址が隣接する利点を活かし、忍城址周辺整備基本計画に基づいた整備により、水と緑と歴史を一体的に感じられる拠点の形成を図ります。
- 水城公園については、水路などの環境整備や施設の充実により、市街地でのゆとりと憩い、親しみのある空間形成を図ります。
- さきたま古墳公園や行田市総合公園などとの回遊性を向上するために、（都）※常盤通佐間線とかすが緑道の整備を推進します。

※（都）：都市計画道路（以下、同じ）

②忍川や酒巻導水路などを活用した水辺空間の創出

○忍川や酒巻導水路などについては、身近な親水空間の創出を図るとともに、水質浄化に向けた取り組みを推進します。

③歴史資源を活用した街並み景観の形成

○忍城址や足袋蔵をはじめとした歴史資源を保全・活用し、一体的な街並み景観の形成を図ります。

④公園・緑地等の整備

○公園・広場・緑地等の整備を進めます。

○市民参画・協働によるリニューアルを推進するとともに、社会経済情勢に応じた公園・緑地等の機能などを見直し整備を進めます。

○生産緑地地区の保全を促進します。

方針 2：安心して住み続けられる質が高く利便性の高いまちづくり

①市街地における都市機能の集約

○秩父鉄道行田市駅や市役所などの公共公益施設や商店街など、一定の機能が集積している中心市街地においては、更に都市拠点としての機能を高めるために、医療・社会福祉施設などの集約を図ります。

○秩父鉄道東行田駅周辺においては、日常生活を支える身近な店舗などの生活支援施設が配置された、利便性の高い居住環境の形成を図ります。

○公共施設や都市基盤施設の新設及び改修においては、ユニバーサルデザインに基づいた整備を進めます。

○都市機能を集約する中心市街地へのアクセス向上のため、地域公共交通の充実を図ります。

②安全で快適に歩ける歩行者空間の形成

○多様な都市機能を集約する中心市街地は、歩いて暮らせる環境ゾーンとして、バリアフリー化の推進とユニバーサルデザインの導入により、子ども、高齢者、障がい者など、誰もが安全で快適に歩くことのできる連続性のある道路環境整備を推進します。

○生活道路においては、歩行者や自転車の快適な移動と安全確保を図るため、一体的エリアでの車両の走行速度の抑制など、安全対策を進めます。

③災害に強い市街地の形成

○火災延焼の危険性がある地域では、防火地域などの指定の促進に努め、建築物の不燃化の推進を図ります。

○住宅などが密集する市街地における、建物倒壊や火災の延焼などに対する安全性を確保するため、狭隘道路の拡幅や行き止まり道路の解消、建替えの促進を図ります。

方針 3：人が集まり、活気と賑わいのあるまちづくり

①多様な居住ニーズに対応した良好な居住環境の形成

○集合住宅や多世代居住を含めた多様な居住ニーズに対応するとともに、狭隘道路や密集住宅地の解消などにより防災機能を向上させることによって、市街地における居住人口の増

加促進を図ります。

②歴史的街並みづくりと中心市街地の活性化による賑わいの創出

- 忍城址や足袋蔵などの歴史資源を保全・活用して、まちの賑わいを創出します。
- 中心市街地における空き店舗活用などにより、街角ギャラリーなどの芸術文化創造・発信機能や、まちなかの物産店や飲食店等の充実を図ります。
- 地域住民の憩いの場となり、来訪者がゆっくり過ごせる広場などのオープンスペースの整備を図ります。

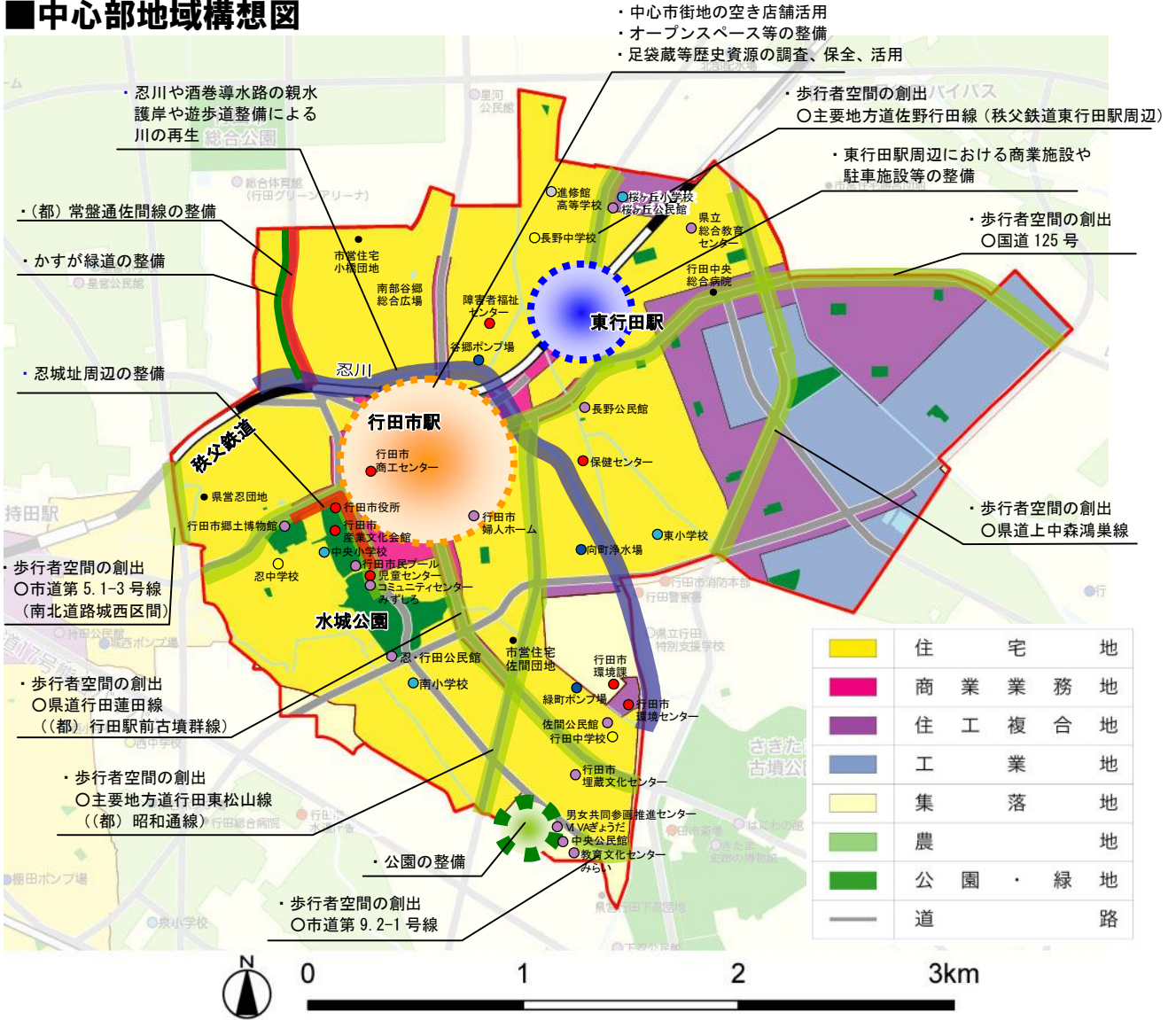
③地域資源をめぐる自転車交通環境の整備

- 地域資源をめぐるサイクリングロードをはじめとした自転車でめぐるができる交通環境の充実を図ります。
- 観光レンタサイクルの更なる充実を目指します。

主な事業一覧表

施策	事業	主な担当課
方針1-① 忍城址と水城公園を核とした拠点の形成	忍城址周辺の整備	都市計画課・道路治水課
	(都)常盤通佐間線の整備	都市計画課・道路治水課
	かすが緑道の整備	都市計画課・道路治水課
	公園・緑地等の整備	都市計画課
方針1-② 忍川や酒巻導水路などを活用した水辺空間の創出	忍川や酒巻導水路の親水護岸や遊歩道整備による川の再生	企画政策課・道路治水課・農政課・都市計画課・商工観光課
	主な河川や水路の水質浄化	管理課・農政課・道路治水課
方針2-① 市街地における都市機能の集約	東行田駅周辺における商業施設の誘導や駐車施設等の整備	都市計画課・道路治水課・防災安全課・商工観光課
	公共施設及び都市基盤施設のユニバーサルデザインに基づく整備	都市計画課・道路治水課・建築課
	地域公共交通の充実	地域づくり支援課
方針2-② 安全で快適に歩ける歩行者空間の形成	・国道・県道における歩行者空間の創出	都市計画課
	・市道第5.1-3号線(南北道路城西区間)、市道第9.2-1号線における歩行者空間の創出	道路治水課
	生活道路の安全対策	防災安全課・道路治水課
方針2-③ 災害に強い市街地の形成	防火地域の指定などによる建築物の不燃化の促進	都市計画課
方針3-① 多様な居住ニーズに対応した良好な居住環境の形成	狭隘道路の解消	道路治水課
	密集住宅地の解消	都市計画課
方針3-② 歴史的街並みづくりと中心市街地の活性化による賑わいの創出	中心市街地の空き店舗活用	商工観光課
	オープンスペース等の整備	商工観光課・都市計画課
	足袋蔵等歴史資源の調査、保全、活用	文化財保護課
方針3-③ 地域資源をめぐる自転車交通環境の整備	サイクリングロードの整備	企画政策課・道路治水課・管理課
	観光レンタサイクルの充実	商工観光課

■中心部地域構想図



5-2 西部地域

1. 地域の概況

南西の市境部分に南の玄関口となるJR行田駅が位置し、市内中心部へは南大通線によりアクセスしています。また、国道17号熊谷バイパス持田ICが設置されるなど、本市の交通結節点の機能を有しています。地域の多くは、土地区画整理事業や大規模開発事業による比較的新しい住宅地が形成されており、国道17号熊谷バイパス沿道の一部には商業的土地利用も見られます。

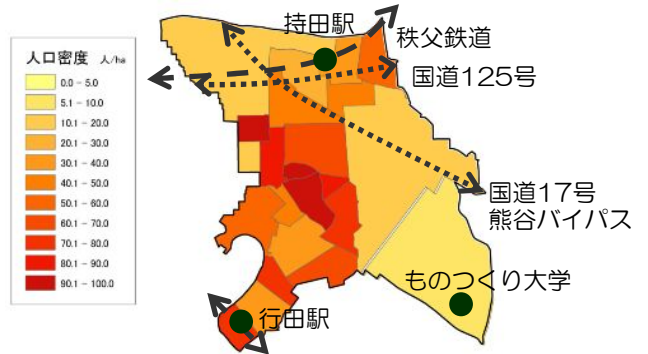


■地域の基礎指標 H22国勢調査および都市計画基礎調査

面	積	605.90 ha	(6,737ha)
市街化区域面積		360.34 ha	(1,160ha)
市街化調整区域面積		245.56 ha	(5,577ha)
人	口	21,688 人	(85,786 人)
世帯	数	8,163 世帯	(30,630 世帯)
世帯	あたり	2.7 人/世帯	(2.8 人/世帯)
人	口	密度	35.8 人/ha (12.7 人/ha)

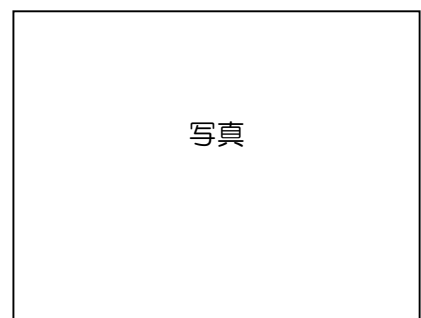
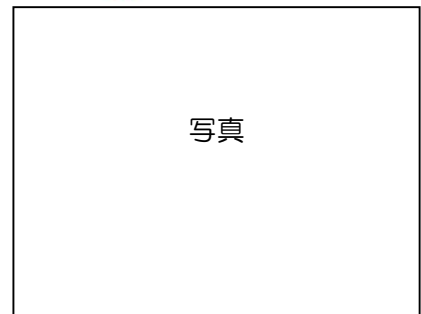
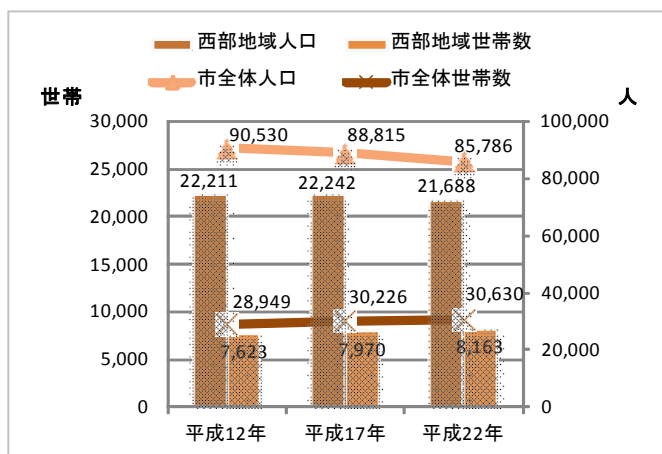
() 内は市全体の数値

■町丁目別人口密度 H22国勢調査



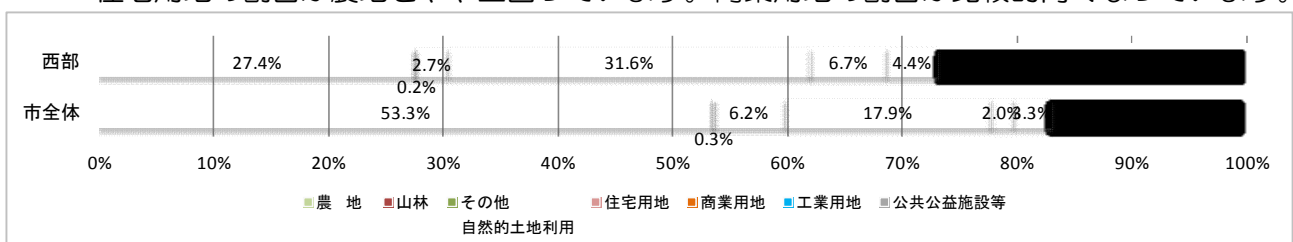
■人口世帯数の推移 H22国勢調査

人口は平成17年から平成22年にかけて2.2%の減少と なっています。世帯数は2.8%増加しています。



■土地利用の状況 H22都市計画基礎調査

住宅用地の割合が農地をやや上回っています。商業用地の割合が比較的高くなっています。



2. 地域の課題

将来都市像 「水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ」

基本目標

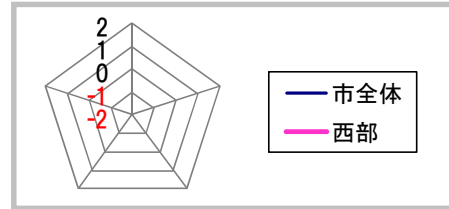
- 1 行田らしさが光るまち
- 2 笑顔で暮らす、住みよいまち
- 3 笑顔あふれ、にぎわいを生むまち

- 4 みんなで
つくる
協働のまち

	西部地域の課題	現状に対する市民のご意見・満足度 (○良い点、△問題点)
水と緑と 歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●生産性の高い優良農地の保全促進と耕作放棄地の有効活用 ●農地や屋敷林等が生み出す景観の保全促進 	<p>地域別懇談会でのご意見</p> <p>○郊外では、美しい田園風景がある。</p> <hr/> <p>市民アンケート調査での地域の満足度評価</p> <p>△ゆとり、うるおい：「農村風景の美しさ(+0.5)」や「自然の身近さや豊かさ(+0.4)」についてはプラス評価だが市全体と比較すると評価が低い。</p>
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ●JR行田駅周辺における生活支援施設の誘導と住宅地の充実 ●秩父鉄道持田駅周辺における身近な店舗などの生活支援施設の充実 ●駅周辺の公共施設の充実 ●身近な公園・緑地等の計画的な更新と維持管理 	<p>地域別懇談会でのご意見</p> <p>○JR行田駅は市の玄関口である。 ○南大通線の開通により市内循環バス路線が充実し、JR行田駅への利便性が高まった。 ○総合病院や個人病院があり、住みやすい。 ○保育や学童に関する環境が充実している。 △駅の駐車場、駐輪場が狭い。 △災害対策、水害対策が不十分である。 △市民が利用できる公共施設（レクリエーション施設）が不足している。 △公園や緑が少なく、子どもが遊ぶ場が少ない。</p> <hr/> <p>市民アンケート調査での地域の満足度評価</p> <p>△居住環境：「日当たりや風通し(+0.9)」や「宅地の広さやゆとり(+0.6)」について評価が高いが、市全体と比較すると評価が低い。 ○暮らしやすさ：「日用品の買い物の利便性(+0.9)」や「幹線道路の整備状況(+0.8)」、「生活道路の整備状況(+0.7)」について非常に評価が高い。</p>
にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ●JR行田駅からの市内各地へのアクセス強化 ●JR行田駅における観光案内拠点の強化 	<p>地域別懇談会でのご意見</p> <p>○南大通線の開通により市内循環バス路線が充実し、JR行田駅への利便性が高まった。 △駅前の観光案内所が有効に活用されていない。 △レンタサイクルなど自転車の利用が少ない。 歩道や自転車道の整備も充分ではない。</p> <hr/> <p>市民アンケート調査での地域の満足度評価</p> <p>○コミュニティ：「コミュニティ施設の整備状況(+0.3)」について比較的评价が高い。</p>

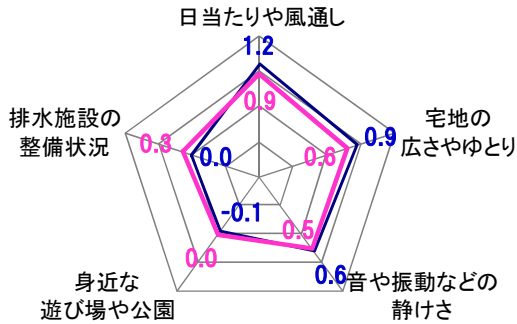
※ 第2章～4章にかけて市の現状と課題を整理し、将来像・基本目標を位置付けました。ここでは更に地域別懇談会でのご意見や市民アンケート調査の結果もふまえて、地域の課題を整理しました。

市民アンケート調査の地域別集計結果

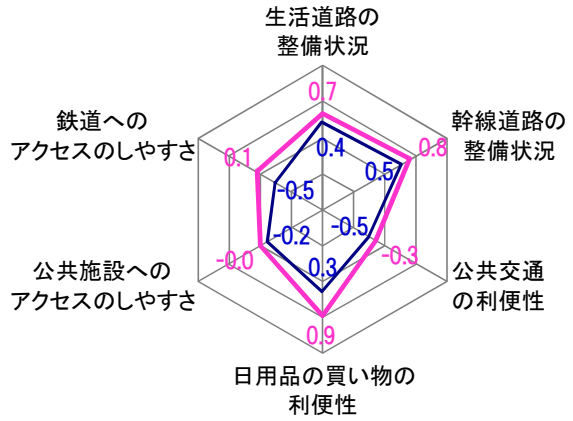


◆現状のまちづくりに対する満足度

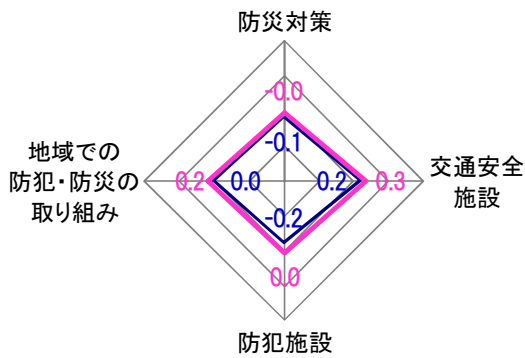
【居住環境について】



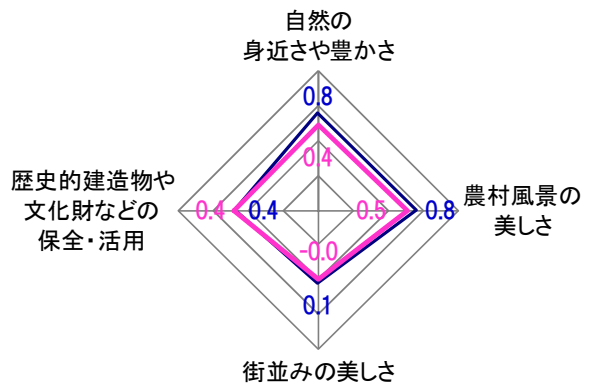
【暮らしやすさについて】



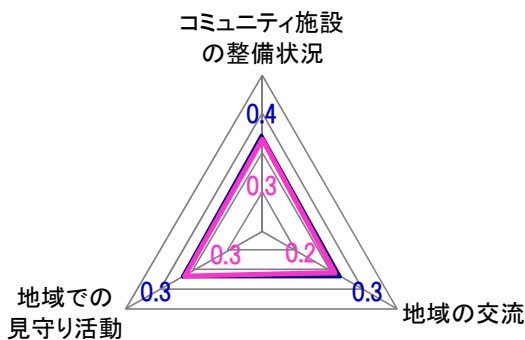
【安全・安心について】



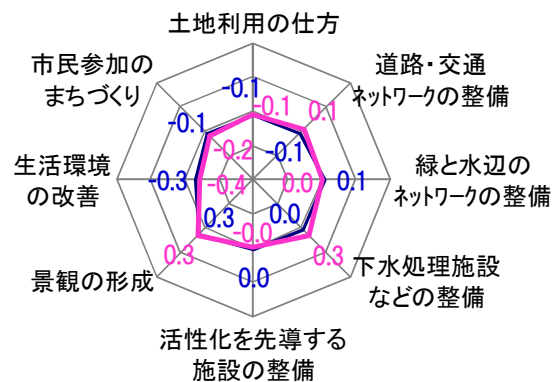
【ゆとり、うるおいについて】



【コミュニティについて】



【施策について】



※グラフの数字は、各項目に対する満足度の評価結果を、「満足」:2点「ほぼ満足」:1点「やや不満」:-1点「不満」:-2点として合計し、回答者数で割ったものです。-2~+2の範囲で、プラスの数字が大きいものほど満足度が高く、マイナスの数字が大きいものほど満足度が低いことになります。

3. 地域の将来像と基本方針

西部地域では、都市拠点であるJR行田駅周辺の交通結節機能の充実、公共交通ネットワークの強化など、転入者や来訪者の増加につながる施策の充実が求められています。

まちづくりの現状とこれらの課題をふまえて、西部地域の将来像とまちづくりの方針を次のように位置付けます。

西部地域の将来像

南の玄関口としてふさわしい都市機能と風格を備え、
多様な世代が快適に暮らせるまち

西部地域のまちづくりの方針

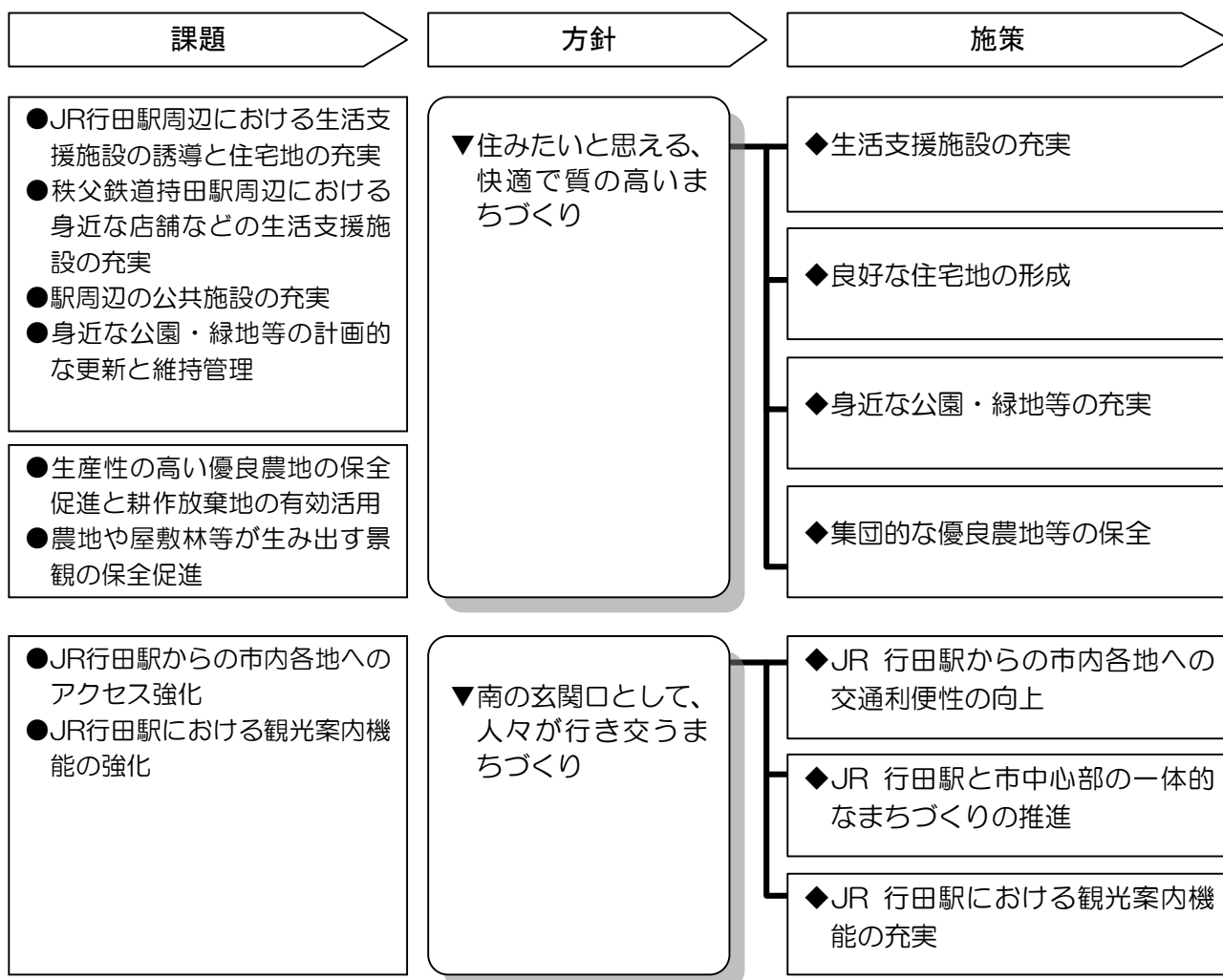
1) 住みたいと思える、快適で質の高いまちづくり

- ・ 都心や県内中心部へのアクセス利便性が高い JR 行田駅に近い利点を活かし、南の玄関口に相応しい都市機能が充実した、子育てがしやすく、快適で質の高い暮らしを実現できるまちづくりを進めます。
- ・ 土地区画整理事業や大規模開発事業により整備された既存住宅地では、地域住民の高齢化に伴う様々な課題に対応し、安心して住み続けられるまちづくりを進めます。
- ・ 快適かつ利便性の高い魅力ある住宅地を充実させるために、持田地区などの市街化調整区域について住居系土地利用への見直しを図ります。

2) 南の玄関口として、人々が行き交うまちづくり

- ・ 南の玄関口となる JR 行田駅を有する地域であり、中心市街地や市内各地への交通利便性を高めるとともに、観光案内拠点としての機能を高め、多くの人を訪れるまちづくりを進めます。

西部地域の体系図



4. 施策の内容

方針1：住みたいと思える、快適で質の高いまちづくり

①生活支援施設の充実

○都市拠点であるJR行田駅周辺においては、商業施設、子育て支援センターなどの子育て支援施設、行政サービス施設などの生活支援施設の誘導や市街地の高度利用を図ります。

○秩父鉄道持田駅周辺及び新駅構想地区の周辺においては、都市基盤整備を推進するとともに、日常生活を支える身近な商業施設など生活支援施設の充実を図ります。また、駐輪場、駐車場の整備により、交通結節点としての機能を強化し、生活利便性の向上を図ります。

②良好な住宅地の形成

○生活支援施設の充実により、利便性の高い居住環境の充実を図ります。

○JR行田駅にアクセスが容易な持田地区などにおいては、(都)※南大通線沿道の土地利用の見直しと関連付けて、ゆとりある住居系土地利用への見直しについて検討します。

○中心市街地や各地域への交通利便性を向上するために、幹線道路ネットワークの整備を進めるとともに、安心して歩ける歩行者空間の形成を図ります。

※(都)：都市計画道路(以下、同じ)

○土地区画整理事業などにより形成された住宅地においては、地区計画制度や建築協定等により、ゆとりのある落ち着いた住宅地の形成を図ります。

○局地的な豪雨や台風等による浸水や冠水など水災害を防ぐため、排水路の改良や内水排除などの治水対策を進めます。

③身近な公園・緑地等の充実

○身近な公園・広場・緑地等の整備を進めます。

○市民参画・協働によるリニューアルを推進するとともに、社会経済情勢に応じた公園・緑地等の機能などの見直しを図り、地域コミュニティの場として再生します。

○生産緑地地区の保全を促進します。

④集団的な優良農地等の保全

○生産性の高い集団的な優良農地については、遊水機能をはじめ多様な環境保全機能を持つ緑地として維持します。

方針2：南の玄関口として、人々が行き交うまちづくり

①JR行田駅からの市内各地への交通利便性の向上

○市民や来訪者が、自動車や公共交通を利用して、市内各地へ快適に移動できるようにするため、JR行田駅周辺における駅前広場や駐車場の整備、駐車場案内・誘導システムの構築、地域公共交通の充実などにより、交通結節機能の強化を図ります。

○環境にやさしい交通手段である自転車利用を促進するため、通勤・通学時の自転車利用に向けた駅周辺における駐輪場整備を進めるとともに、駅を拠点として観光レンタサイクルの更なる充実を目指します。

②JR行田駅と市中心部の一体的なまちづくりの推進

○JR行田駅と市中心部の一体的かつ連続的なまちづくりを推進するため、(都)南大通線の沿道における土地利用の見直しを図ります。

③JR行田駅における観光案内機能の充実

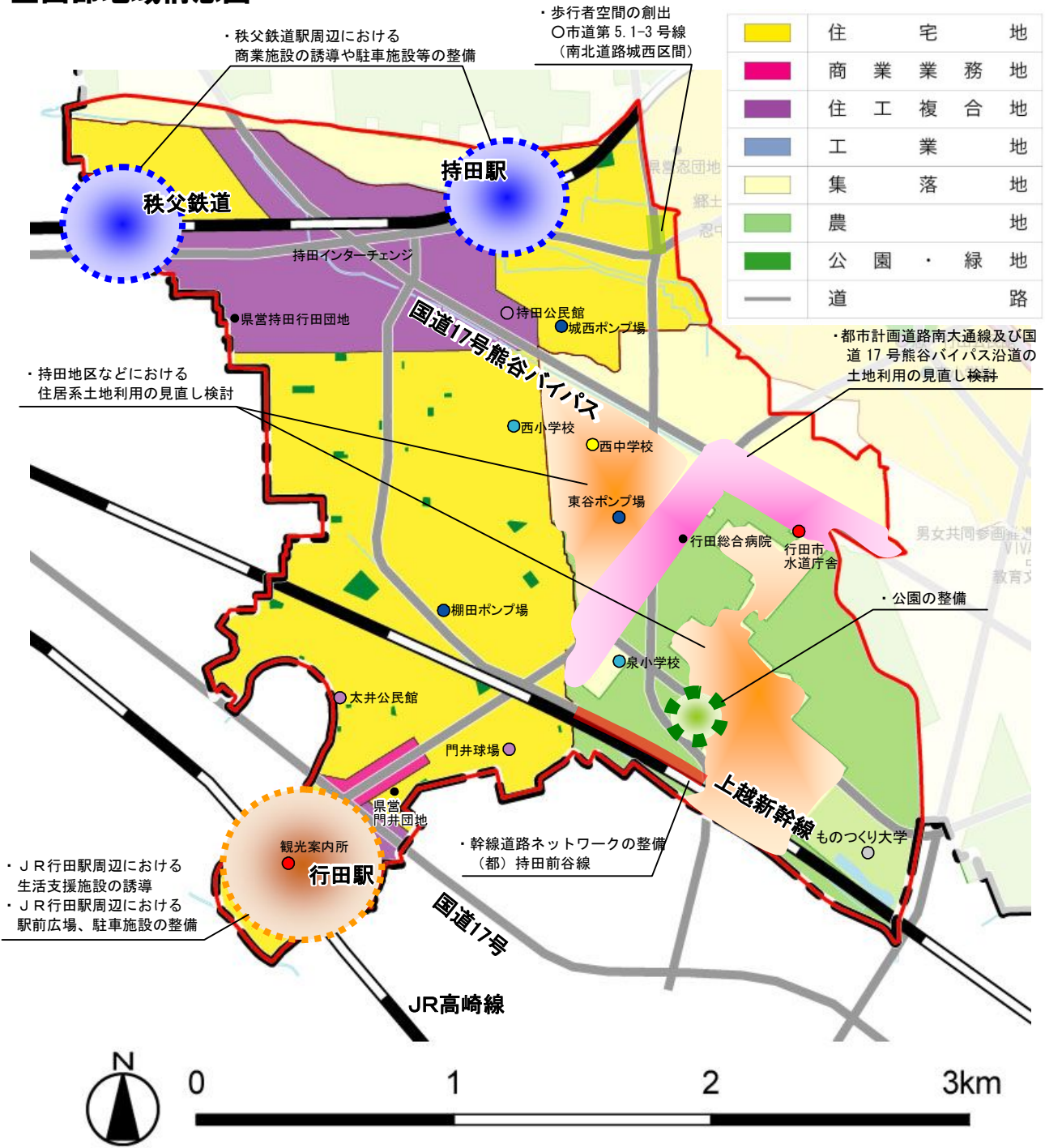
○観光案内所の充実や分かりやすい情報発信などにより、観光案内機能の充実を図ります。

○来訪者の利便性を向上するため、観光サインや観光マップの充実による情報提供に努め、市内各所への来訪者の利便性向上を図ります。

主な事業一覧表

施策	事業	主な担当課
方針1-① 生活支援施設の充実	JR行田駅周辺における生活支援施設の誘導	子育て支援課・都市計画課・企画政策課
	秩父鉄道駅周辺における商業施設の誘導や駐車施設等の整備	企画政策課・都市計画課・道路治水課・防災安全課・商工観光課
方針1-② 良好な住宅地の形成	持田地区などにおける住居系土地利用の見直し	都市計画課
	幹線道路ネットワークの整備 ・（都）持田前谷線	道路治水課
	歩行者空間の創出 ・市道第5.1-3号線（南北道路城西区間）	道路治水課
	生活道路の安全対策	防災安全課・道路治水課
	既存住宅地における地区計画、建築協定等の導入	都市計画課・開発指導課
	治水対策の推進	道路治水課
方針1-③ 身近な公園・緑地等の充実	公園の整備	都市計画課
方針2-① JR行田駅からの市内各地への交通利便性の向上	JR行田駅周辺における駅前広場、駐車施設の整備	都市計画課・道路治水課・防災安全課
	地域公共交通の充実	地域づくり支援課
	観光レンタサイクルの充実	商工観光課
方針2-② JR行田駅と市中心部の一体的なまちづくりの推進	都市計画道路南大通線及び国道17号熊谷バイパス沿道の土地利用の見直し	都市計画課・開発指導課・企画政策課・農政課
方針2-③ JR行田駅における観光案内機能の充実	観光案内所の充実	商工観光課
	観光サインや観光マップ等の充実	商工観光課

■西部地域構想図



5-3 北部地域

1. 地域の概況

地域の北側に利根川、南北を武蔵水路や見沼代用水が流れており、南河原地区の中心部、武州荒木駅周辺、星川流域周辺及び幹線道路沿道周辺で集落が広がるほかは、区域全体で水田が多く見られます。南側を通る国道125号行田バイパス沿道には、総合公園・総合体育館があり、本市のスポーツの拠点となっています。南河原支所周辺部を除くほぼ全域が市街化調整区域となっています。

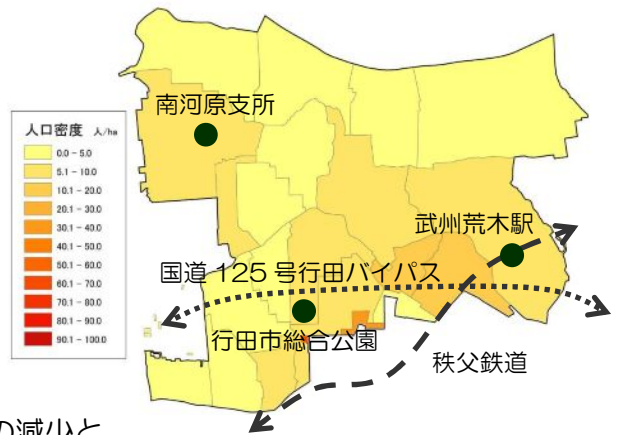


■地域の基礎指標 H22国勢調査および都市計画基礎調査

面積	積	3,016.90 ha	(6,737ha)
市街化区域面積		58.00 ha	(1,160ha)
市街化調整区域面積		2,958.90 ha	(5,577ha)
人口	口	16,974 人	(85,786 人)
世帯数		5,240 世帯	(30,630 世帯)
世帯当たり人数		3.2 人/世帯	(2.8 人/世帯)
人口密度		5.6 人/ha	(12.7 人/ha)

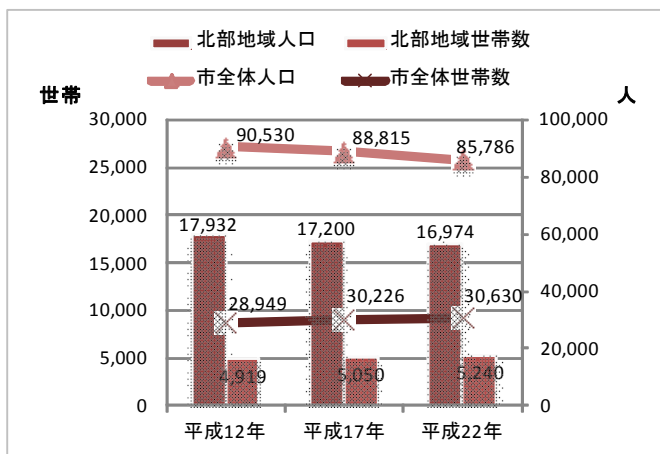
() 内は市全体の数値

■町丁目別人口密度 H22国勢調査



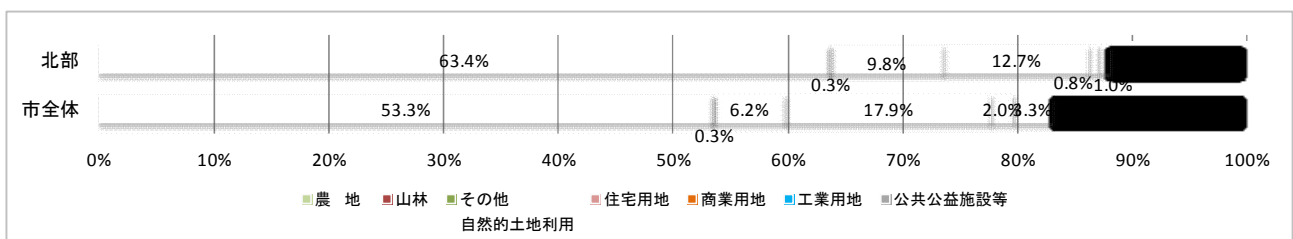
■人口世帯数の推移 H22国勢調査

人口は平成17年から平成22年にかけて2.2%の減少となっています。世帯数は2.7%増加しています。



■土地利用の状況 H22都市計画基礎調査

農地の割合が最も多く、住宅・商工業用地等の都市的土地利用の割合は低くなっています。



2. 地域の課題

将来都市像 「水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ」

基本目標

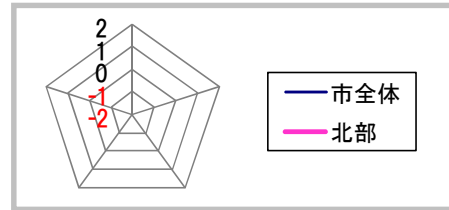
- 1 行田らしさが光るまち
- 2 笑顔で暮らす、住みよいまち
- 3 笑顔あふれ、にぎわいを生むまち

- 4 みんなで
つくる
協働のまち

		北部地域の課題	現状に対する市民のご意見・満足度 (○良い点、△問題点)	
水と緑 と歴史		<ul style="list-style-type: none"> ●豊かな自然環境の保全 ●利根川、武蔵水路等の活用 ●生産性の高い優良農地の保全促進と耕作放棄地の有効活用 ●河川や用水路、農地や屋敷林等が生み出す景観の保全促進 	地域別懇談会でのご意見	<p>○利根川などの河川や武蔵水路などの用水路、田園や屋敷林など恵まれた自然環境がある。</p> <p>△農業従事者の減少に伴い、耕作放棄地が増えている。</p>
			市民アンケート調査での地域の満足度評価	<p>○ゆとり、うるおい：「自然の身近さや豊かさ(+1.1)」や「農村風景の美しさ(+1.0)」について評価が高い。</p>
	暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ●都市基盤整備の推進 ●秩父鉄道武州荒木駅周辺における身近な商業施設の充実 ●交通渋滞を発生させるボトルネック箇所の解消 ●通学路の安全性の確保 ●市中心部や公共公益施設へのアクセス強化 ●身近な公園・緑地等の充実 	地域別懇談会でのご意見	<p>△道路の舗装などが十分に整備されていない。</p> <p>△周辺に保育所などの子育て支援施設や、地域住民が交流できる公園や施設が少ない。</p> <p>△利根大堰周辺などで交通渋滞が発生している。生活道路に通勤時の車が進入し、事故が発生している。</p> <p>△通学路に歩道がない箇所がある。防犯灯が少なく、暗い。</p> <p>△公共公益施設や市中心部へのアクセスが悪く、買い物が不便である。</p>
にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ●国道125号バイパス沿道の土地利用の見直し検討 	市民アンケート調査での地域の満足度評価	<p>○居住環境：「日当たりや風通し(+1.4)」や「宅地の広さやゆとり(+1.2)」について評価が高い。</p> <p>△居住環境：「排水施設の整備状況(-0.3)」や「身近な遊び場や公園(-0.4)」について評価が低い。</p> <p>△暮らしやすさ：「鉄道へのアクセスのしやすさ(-0.7)」、「公共交通の利便性(-0.7)」、「公共施設へのアクセスのしやすさ(-0.5)」について評価が低い。</p> <p>△まちづくりの施策：「生活環境の改善(-0.4)」や「道路・交通ネットワークの整備(-0.3)」について評価が低い。</p>	
			地域別懇談会でのご意見	<p>△国道125号バイパス沿道に道の駅や食事ができる場所などのサービスが充実していない。</p> <p>○地域コミュニティのつながりが強い。</p> <p>○利根川には、水上スポーツに訪れる人が多い。</p>
			市民アンケート調査での地域の満足度評価	<p>○コミュニティ：「コミュニティ施設の整備状況(+0.5)」や「地域の交流(+0.5)」について比較的评价が高い。</p>

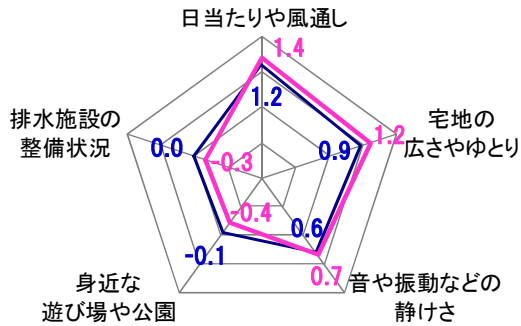
※ 第2章～4章にかけて市の現状と課題を整理し、将来像・基本目標を位置付けました。ここでは更に地域別懇談会でのご意見や市民アンケート調査の結果もふまえて、地域の課題を整理しました。

市民アンケート調査の地域別集計結果

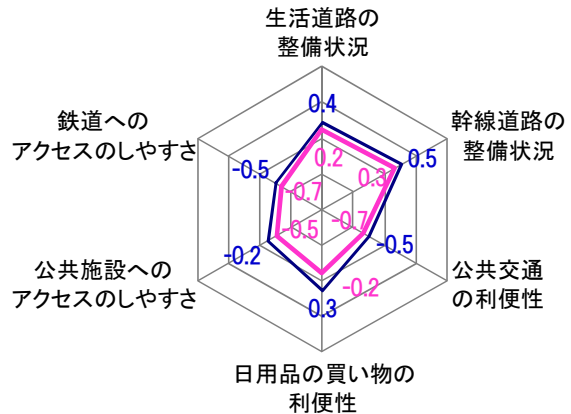


◆現状のまちづくりに対する満足度

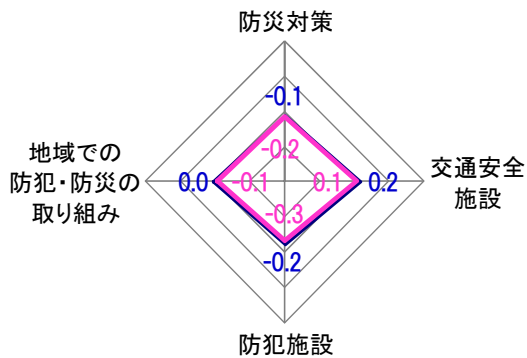
【居住環境について】



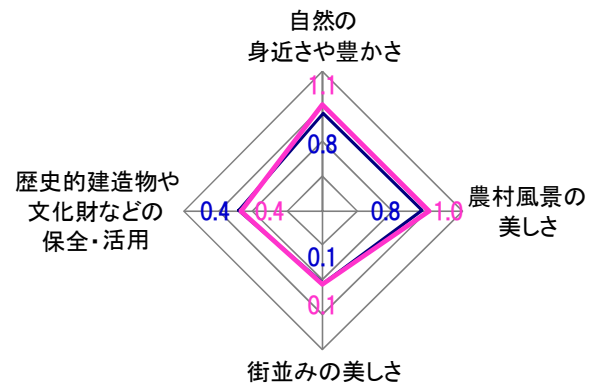
【暮らしやすさについて】



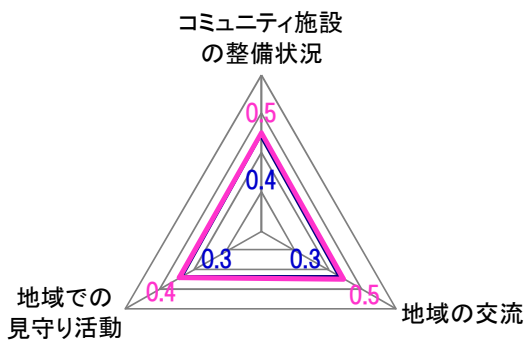
【安全・安心について】



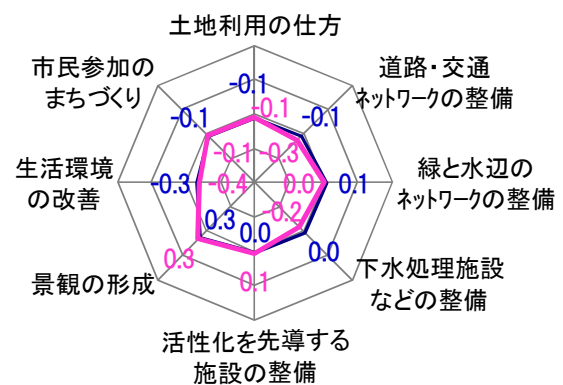
【ゆとり、うるおいについて】



【コミュニティについて】



【施策について】



※グラフの数字は、各項目に対する満足度の評価結果を、「満足」:2点「ほぼ満足」:1点「やや不満」:-1点「不満」:-2点として合計し、回答者数で割ったものです。-2~+2の範囲で、プラスの数字が大きいものほど満足度が高く、マイナスの数字が大きいものほど満足度が低いこととなります。

3. 地域の将来像と基本方針

北部地域では、恵まれた田園風景などの自然環境を活かしつつ、居住環境との調和のとれた整備や、道路・公共交通等の都市基盤の整備・充実が求められています。

まちづくりの現状とこれらの課題をふまえて、北部地域の将来像とまちづくりの方針を次のように位置付けます。

北部地域の将来像

豊かな水と緑に囲まれ、
支え合える地域コミュニティが充実し
安心して住み続けられるまち

北部地域のまちづくりの方針

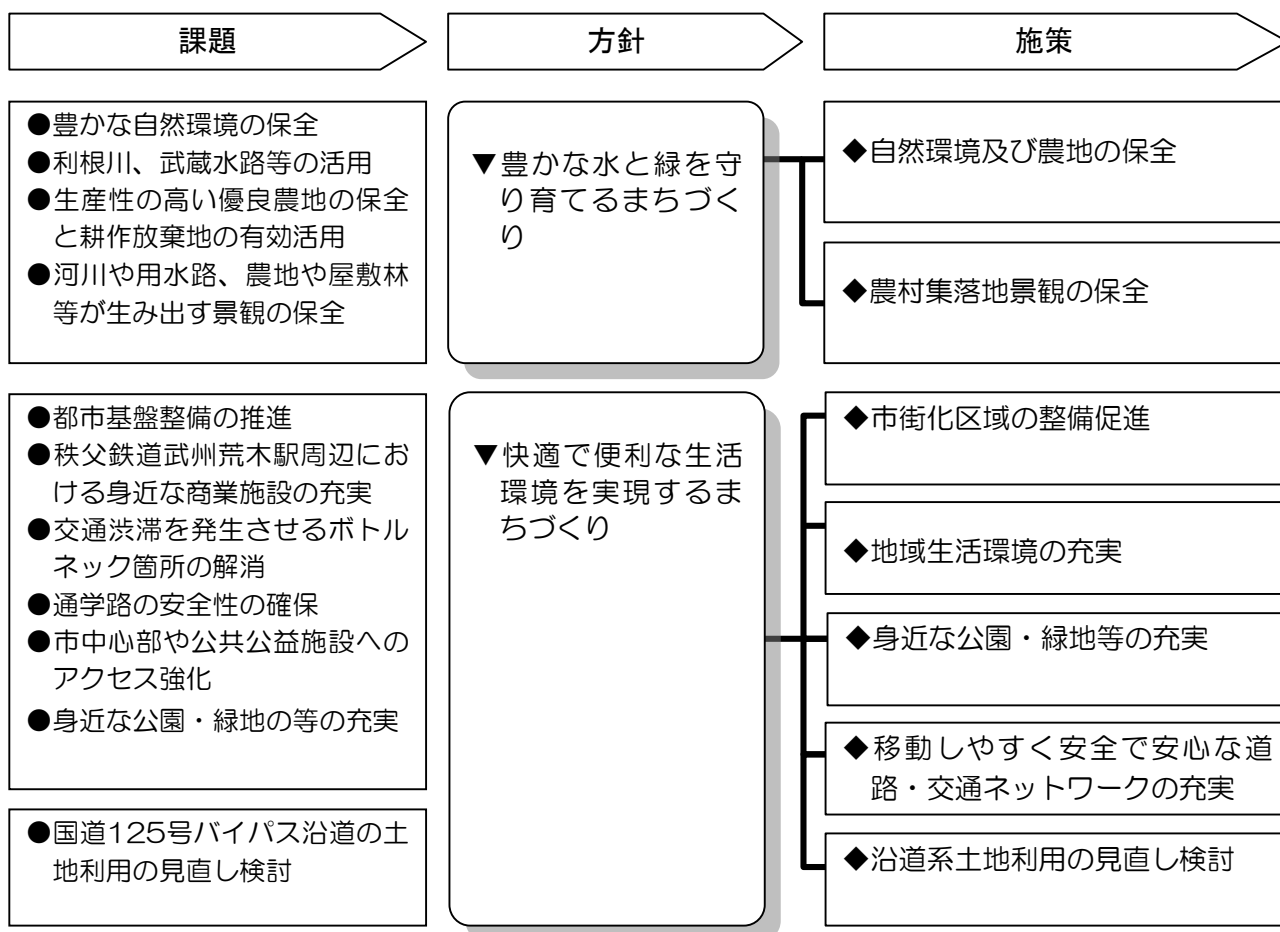
1) 豊かな水と緑を守り育てるまちづくり

- ・ 広々とした水田や水路、点在する社寺や屋敷林の豊かな水と緑と、多様な動植物が生息する自然環境を守り育てるまちづくりを進めます。
- ・ 周辺の自然環境との調和を図り、自然と環境にやさしいまちづくりを進めます。

2) 快適で便利な生活環境を実現するまちづくり

- ・ 農村集落地における都市基盤整備を進めるとともに、日常生活を支える身近な店舗などの生活支援施設の充実や地域コミュニティの維持を図り、安心して快適に住み続けることができるまちづくりを進めます。

北部地域の体系図



4. 施策の内容

方針1：豊かな水と緑を守り育てるまちづくり

①自然環境及び農地の保全

- 利根川をはじめとした豊かな水辺、広々とした農地や点在する集落地における屋敷林や社寺林の緑地など、恵まれた自然環境を保全します。
- 生産性の高い集団的な優良農地は、遊水機能などの多様な環境機能を持つ緑地として保全します。
- 新たな宅地開発については、開発許可制度の適切な運用を行い、無秩序な宅地の拡散を抑制します。
- 道路整備にあたっては、周辺の景観や生態系などに配慮し、人と環境にやさしいみちづくりを進めます。

②農村集落地景観の保全

- 遠方の山並みの眺望の中にある広々とした田園、集落の中の屋敷林や社寺の緑がおりなす景観の維持・保全を図ります。
- 農村集落地において、宅地化や都市的土地利用を図る場合は、無秩序な宅地化の防止や既存集落との一体性を持った整備など、周辺に十分配慮した整備とするよう誘導します。

方針2：快適で便利な生活環境を実現するまちづくり

①市街化区域の整備促進

○南河原地区の市街化区域内においては、地区内の生活道路や公園・緑地等の整備など、必要な都市基盤整備を推進するとともに、生活を支える身近な小規模店舗の充実を図ります。

②地域生活環境の充実

○秩父鉄道武州荒木駅周辺は、地域住民の生活・活動拠点として、日常生活を支える身近な商業施設などを充実させるとともに、駐輪場、駐車場などの都市基盤整備を進めます。

○生活道路ネットワークを充実させることにより、生活環境の充実を図ります。

③身近な公園・緑地等の充実

○身近な公園・広場・緑地等の整備を進めます。

○市民参画・協働によるリニューアルを推進するとともに、公園・緑地等の機能などの見直しを図り、地域コミュニティの場として再生します。

④移動しやすく安全で安心な道路・交通ネットワークの充実

○中心市街地や各地域への交通利便性を向上するために、地域公共交通などの機能を強化するとともに、幹線道路ネットワークの整備を進めます。

○生活道路については、車両の通行速度の抑制などの安全対策の充実により、安心して歩ける歩行者空間の形成を図ります。

○サイクリングロードのネットワーク化を図ります。

○交通渋滞を発生させるボトルネック箇所においては、交差点改良や周辺自治体との連携により、解消を図ります。

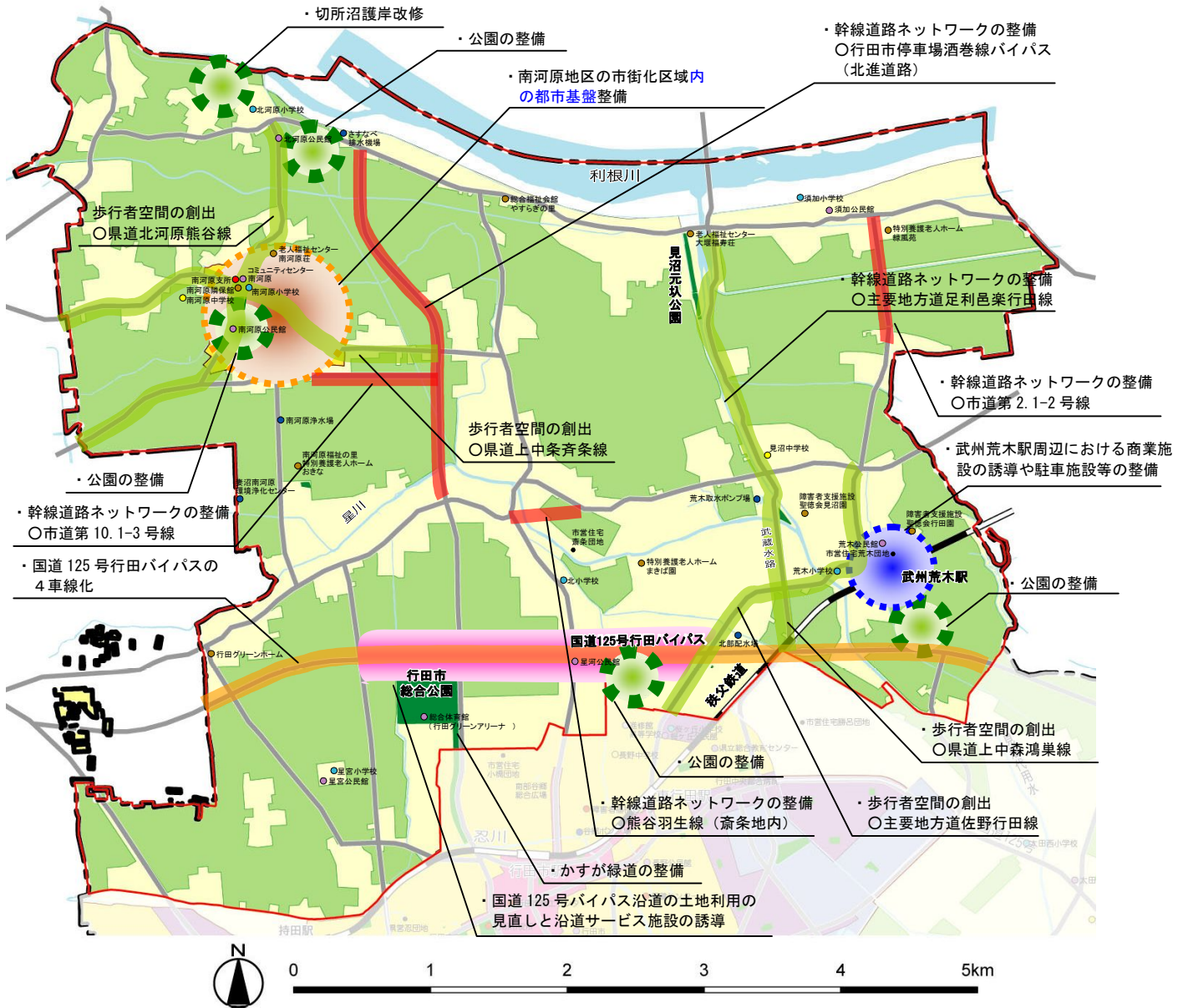
⑤沿道系土地利用の見直し検討

○国道125号バイパス沿道では、観光や地域情報などを発信する沿道サービス施設などを誘導するため、土地利用の見直しを図ります。

主な事業一覧表

施策	事業	主な担当課
方針1-① 自然環境及び農地の保全	集団的な優良農地の保全の促進	農政課
	無秩序な宅地開発の抑制	開発指導課
	切所沼護岸補修	農政課
方針2-① 市街化区域の整備促進	南河原地区の市街化区域内の都市基盤整備	道路治水課・都市計画課
方針2-② 地域生活環境の充実	武州荒木駅周辺における商業施設の誘導や駐車施設等の整備	都市計画課・道路治水課・防災安全課・商工観光課
	生活道路ネットワークの整備	道路治水課
方針2-③ 身近な公園・緑地等の充実	公園の整備	都市計画課
方針2-④ 移動しやすく安全で安心な道路・交通ネットワークの充実	国道125号行田バイパスの4車線化	都市計画課
	幹線道路ネットワークの整備 ・行田市停車場酒巻線バイパス（北進道路） ・熊谷羽生線（斎条地内）	都市計画課・道路治水課・管理課 都市計画課・道路治水課・管理課
	・市道第2.1-2号線 ・市道第10.1-3号線	道路治水課 道路治水課
	長期未整備都市計画道路の見直し	都市計画課
	狭隘道路の解消	道路治水課
	国道・県道における歩行者空間の創出	都市計画課
	生活道路の安全対策	防災安全課・道路治水課
	地域公共交通の充実	地域づくり支援課
	サイクリングロードの整備	企画政策課・道路治水課・管理課
	利根大堰交差点の渋滞解消	都市計画課
	方針2-⑤ 沿道系土地利用の見直し検討	国道125号バイパス沿道の土地利用の見直しと沿道サービス施設の誘導

北部地域構想図



	住 宅 地
	商 業 業 務 地
	住 工 複 合 地
	工 業 地
	集 落 地
	農 地
	公 園 ・ 緑 地
	道 路

5-4 南東部地域

1. 地域の概況

見沼代用水、忍川、旧忍川流域を中心に水田が広がっているほか、行田浄水場、小針クリーンセンター等の供給処理施設があります。また、さきたま古墳群や古代蓮の里などの地域資源に恵まれており、市民の憩いの場・観光スポットとしての役割を担っています。南部の行田みなみ産業団地を除くほぼ全域が市街化調整区域となっています。

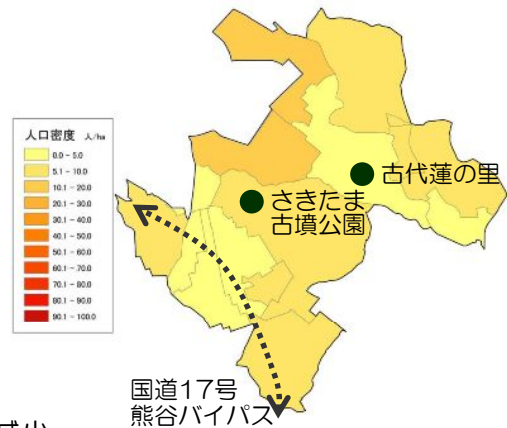


■地域の基礎指標 H22国勢調査および都市計画基礎調査

面積	積	2,377.40 ha (6,737ha)
市街化区域面積		44.50 ha (1,160ha)
市街化調整区域面積		2,332.90 ha (5,577ha)
人口	口	13,945 人 (85,786 人)
世帯数	数	4,474 世帯 (30,630 世帯)
世帯あたり人数		3.1 人/世帯 (2.8 人/世帯)
人口密度		5.9 人/ha (12.7 人/ha)

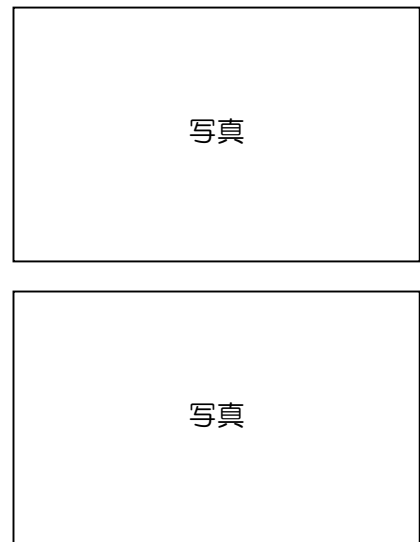
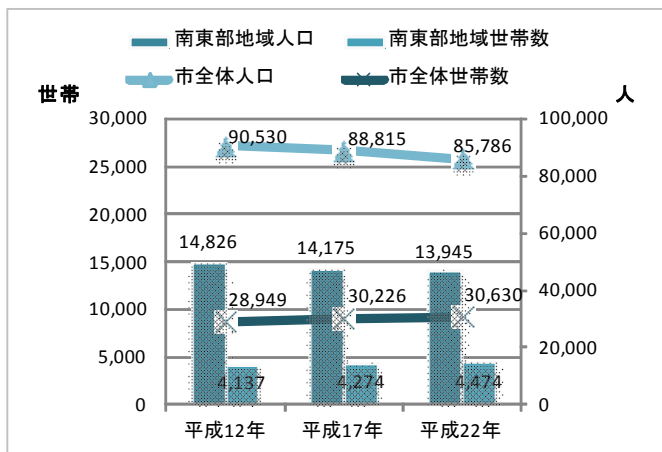
()内は市全体の数値

■町丁目別人口密度 H22国勢調査



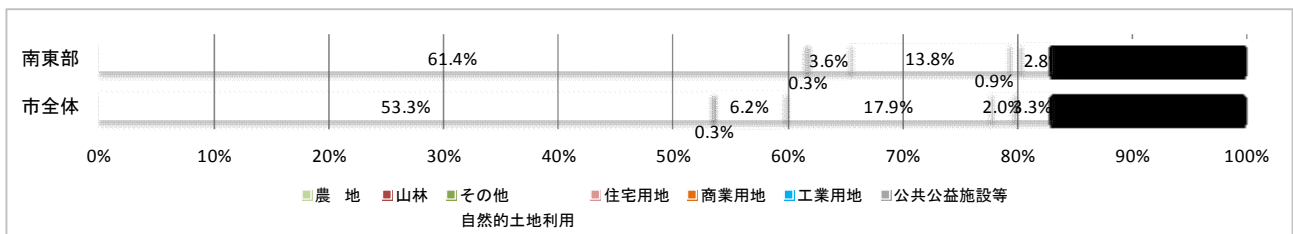
■人口世帯数の推移 H22国勢調査

人口は平成17年から平成22年にかけて5.4%の減少となっており、市全体で最も減少幅が大きくなっています。世帯数に関しては横ばいとなっています。



■土地利用の状況 H22都市計画基礎調査

農地の割合が最も多く、住宅・商工業用地等の都市的土地利用の割合は低くなっています。



2. 地域の課題

将来都市像 「水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ」

基本目標

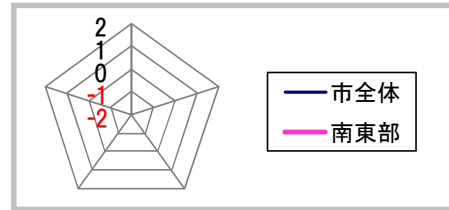
- 1 行田らしさが光るまち
- 2 笑顔で暮らす、住みよいまち
- 3 笑顔あふれ、にぎわいを生むまち

- 4 みんなで
つくる
協働のまち

		現状に対する市民のご意見・満足度 (○良い点、△問題点)	
水と緑と歴史	南東部地域の課題	地域別懇談会でのご意見	○さきたま古墳公園や古代蓮の里、さきたま緑道などの地域資源がある。 ○保全すべき豊かな自然環境がある。
		市民アンケート調査での地域の満足度評価	○ゆとり、うるおい：「自然の身近さや豊かさ(+1.0)」や「農村風景の美しさ(+1.0)」について評価が高い。
暮らし	●生活道路における通過交通の抑制 ●緊急車両が通行できる幅員の確保 ●駅及び中心部へのアクセス強化、地域間ネットワークの強化 ●身近に買い物ができる施設の充実 ●身近な公園・遊び場等の充実 ●農業用水路の水質浄化 ●幹線道路における歩行者空間の確保	地域別懇談会でのご意見	△幹線道路から生活道路へ流入する通り抜け車両が多い。 △生活道路の幅員が狭く、緊急車両が通行できない箇所がある。歩道がない道路や、行き止まり道路が多い。 △JR行田駅・吹上駅・北鴻巣駅への公共交通手段が充分ではない。また、地域間を結ぶ道路網が不足している。 △近所に徒歩や自転車で行ける商店がない。 △高齢者が集まったり幼児を安心して遊ばせたりすることのできる公園やスポーツ施設が少ない。 △農業排水、生活排水により、農業用水路の環境が悪化している。
		市民アンケート調査での地域の満足度評価	○居住環境：「日当たりや風通し(+1.4)」や「宅地の広さやゆとり(+1.1)」について評価が高い。 △居住環境：「排水施設の整備状況(-0.4)」や「身近な遊び場や公園(-0.3)」について評価が低い。 △暮らしやすさ：「鉄道へのアクセスのしやすさ(-1.2)」や「公共交通の利便性(-1.0)」、「公共施設へのアクセスのしやすさ(-0.7)」について特に評価が低い。 △まちづくりの施策：「生活環境の改善(-0.4)」や「下水処理施設の整備(-0.4)」について特に評価が低い。
にぎわい	●新たな産業ゾーンの検討 ●さきたま古墳群や三重の塔など、歴史的資源の活用 ●多様な地域資源のネットワーク化と案内機能の充実	地域別懇談会でのご意見	○さきたま緑道などは、散策ができて良い。 △豊かな自然環境や歴史を感じる様々な地域資源があるが、それら資源の繋がりが十分でない。
		市民アンケート調査での地域の満足度評価	○コミュニティ：「地域の交流(+0.4)」について比較的评价が高い。

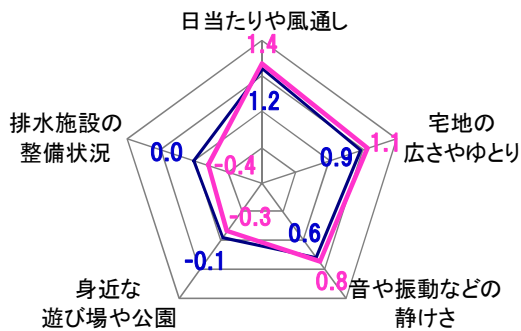
※ 第2章～4章にかけて市の現状と課題を整理し、将来像・基本目標を位置付けました。ここでは更に地域別懇談会でのご意見や市民アンケート調査の結果もふまえて、地域の課題を整理しました。

市民アンケート調査の地域別集計結果

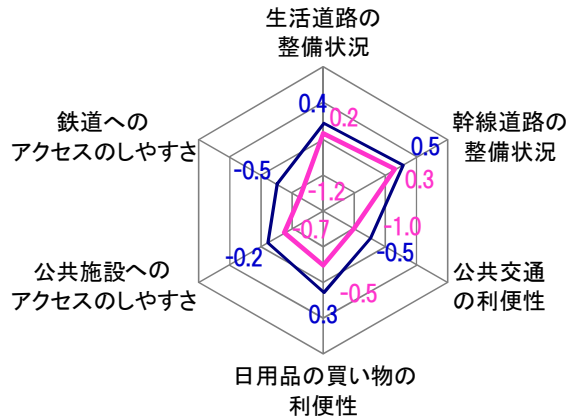


◆現状のまちづくりに対する満足度

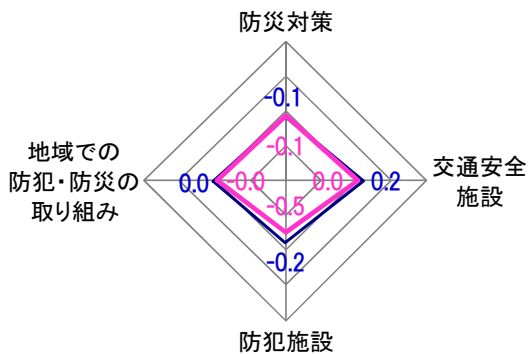
【居住環境について】



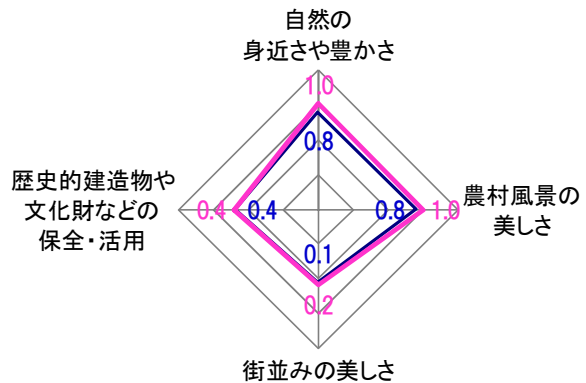
【暮らしやすさについて】



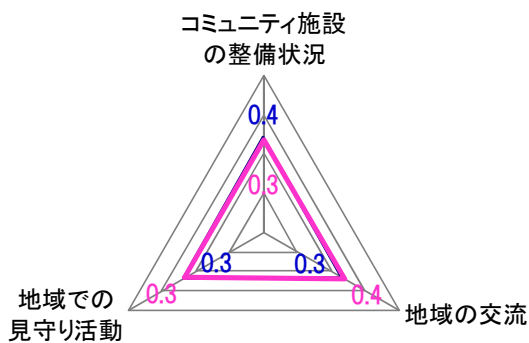
【安全・安心について】



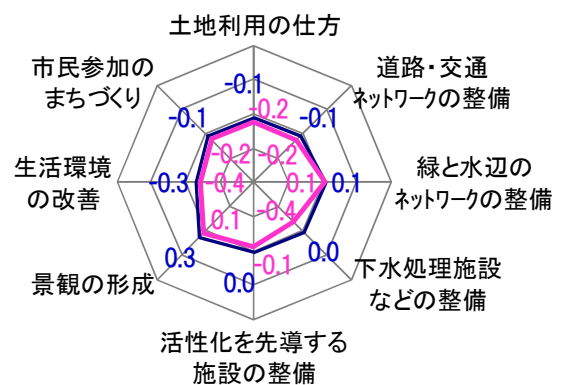
【ゆとり、うるおいについて】



【コミュニティについて】



【施策について】



※グラフの数字は、各項目に対する満足度の評価結果を、「満足」:2点「ほぼ満足」:1点「やや不満」:-1点「不満」:-2点として合計し、回答者数で割ったものです。-2~+2の範囲で、プラスの数字が大きいものほど満足度が高く、マイナスの数字が大きいものほど満足度が低いこととなります。

3. 地域の将来像と基本方針

南東部地域では、身近な自然や地域資源の保全・活用はもとより、道路整備の推進や生活拠点の充実による安全・安心で利便性の高いまちづくりが求められています。

まちづくりの現状とこれらの課題をふまえて、南東部地域の将来像とまちづくりの方針を次のように位置付けます。

南東部地域の将来像

歴史と自然を身近に感じながら、
安心・快適に暮らせるまち

南東部地域のまちづくりの方針

1) 地域資源を保全・活用したまちづくり

- ・さきたま古墳公園や古代蓮の里などの歴史が感じられる緑豊かな地域資源と、その周辺をとりまく農村景観とが調和したまちづくりを進めます。

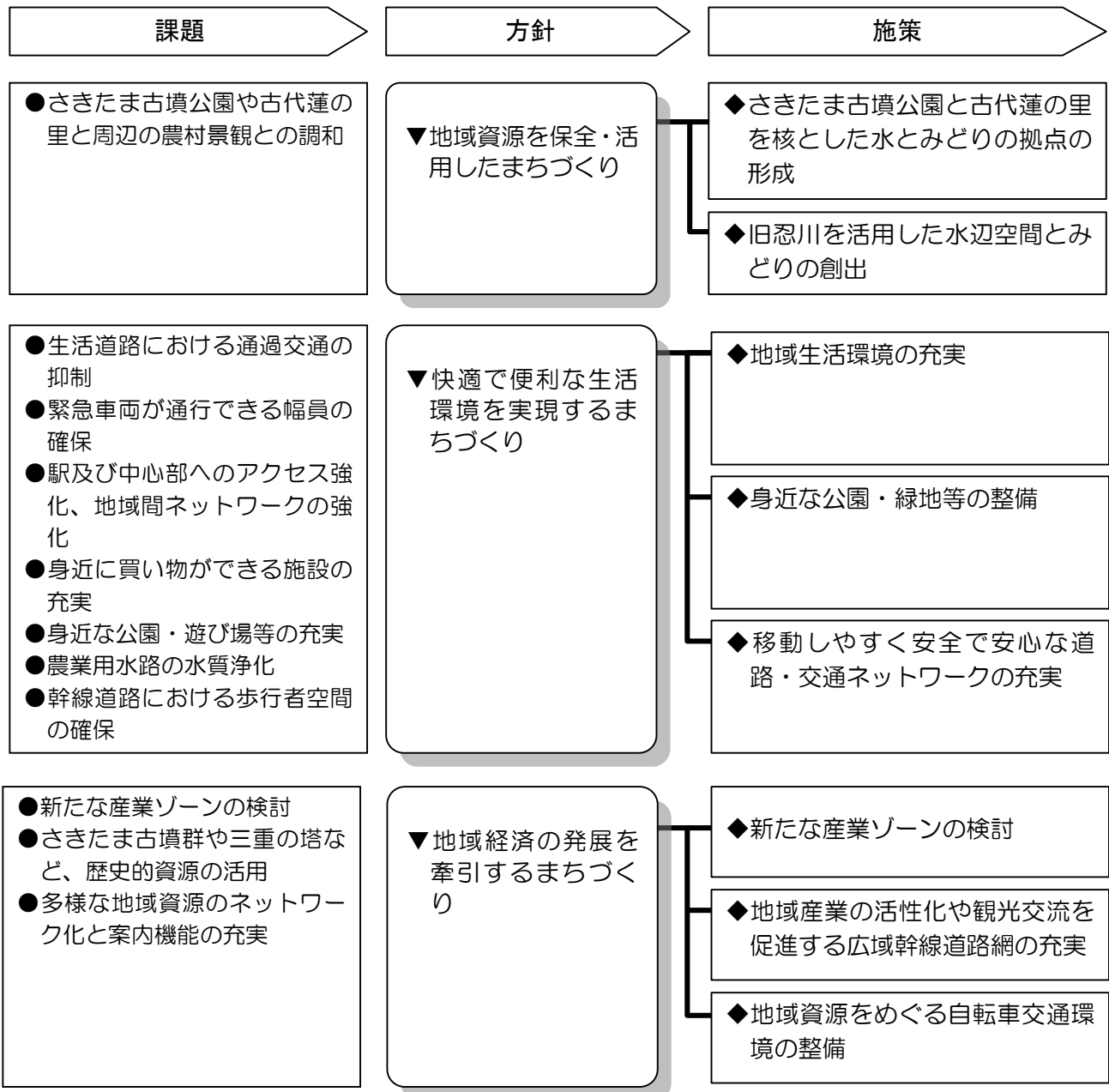
2) 快適で便利な生活環境を実現するまちづくり

- ・道路・交通ネットワークの充実を図るとともに、日常生活を支える身近な店舗などの生活支援施設の充実や地域コミュニティの維持を図り、安心して快適に住み続けることができるまちづくりを進めます。

3) 地域経済の発展を牽引するまちづくり

- ・新たな産業分野や研究開発機関などの誘致や地域資源を活用した地域産業の形成などを促進するために、土地利用の見直しや都市基盤施設の整備などを行い、地域経済の発展を牽引するまちづくりを進めます。

南東部地域の体系図



4. 施策の内容

方針1：地域資源を保全・活用したまちづくり

①さきたま古墳公園と古代蓮の里を核とした水とみどりの拠点の形成

- 水と緑の拠点であるさきたま古墳公園と古代蓮の里、それらを結ぶ旧忍川などの地域資源や周辺の農村景観が一体となった、歴史と自然が調和する拠点の形成を図ります。
- さきたま古墳公園の拡張整備、史跡整備を促進するとともに、古代蓮の里の施設の充実を図り、市民や観光客の憩いの場として、親しみと魅力ある公園づくりを進めます。
- 拠点周辺の生産性の高い集団的な優良農地を保全します。

②旧忍川を活用した水辺空間とみどりの創出

- 旧忍川については、豊かな生態系が残された美しい水辺空間を形成するとともに、みどりの自然環境を創出します。

方針 2：快適で便利な生活環境を実現するまちづくり

①地域生活環境の充実

- 既存の集落地については、生活道路の整備と合併浄化槽による水洗化を促進し、生活環境の改善を図ります。
- 生活道路における歩行者や自転車の安全確保を図るため、一体的エリアでの車両の走行速度を抑制するなど、地域の実情に即した安全対策を図ります。
- 日常の生活環境を支える小規模店舗の充実を図ります。

②身近な公園・緑地等の整備

- 身近な公園や広場の整備を進めます。
- 市民参画・協働によるリニューアルを推進するとともに、社会経済情勢に応じた公園・緑地等の機能などの見直しを図り、地域コミュニティの場として再生します。

③移動しやすく安全で安心な道路・交通ネットワークの充実

- 中心市街地や各地域への交通利便性を向上するために、地域公共交通などの機能を強化するとともに、幹線道路ネットワークの整備を進めます。

方針 3：地域経済の発展を牽引するまちづくり

①新たな産業ゾーンの検討

- 情報・通信、エネルギー、リサイクルなどの新たな産業や研究開発機関など、産業の高度化に対応した立地を確保するため、産業系土地利用の検討を行い、必要な都市基盤施設などの環境整備を進めます。
- 市街化調整区域における産業系用途の土地利用においては、周辺環境に配慮し、企業立地に向けた計画的な土地利用を図ります。

②地域産業の活性化や観光交流を促進する広域幹線道路網の充実

- 地域産業の活性化を図るとともに観光などによる交流を促進するため、熊谷渋川連絡道路や上尾道路などの広域幹線道路の整備を促進し、圏央道や高速道路のインターチェンジとのアクセス利便性を高めます。

③地域資源をめぐる自転車交通環境の整備

- 平坦な地形を活かし、さきたま古墳公園や古代蓮の里などの地域資源を自転車でめぐることができるとともに、交通環境の整備を進めます。

主な事業一覧表

施策	事業	主な担当課
方針1-① さきたま古墳公園と古代蓮の里を核とした水と緑の拠点の形成	さきたま古墳公園の拡張整備、史跡整備の促進	都市計画課・文化財保護課
	古代蓮の里の施設の充実	都市計画課
	集団的な優良農地の保全	農政課
方針1-② 旧忍川を活用した水辺空間とみどりの創出	さきたま調節池の整備促進	道路治水課
	旧忍川の浚渫と遊歩道の整備による川の再生	企画政策課・農政課・都市計画課・道路治水課・商工観光課
方針2-① 地域生活環境の充実	生活道路の整備及び安全対策	道路治水課・防災安全課
	合併浄化槽による水洗化の促進	環境課
方針2-② 身近な公園・緑地等の整備	公園の整備	都市計画課
方針2-③ 移動しやすく安全で安心な道路・交通ネットワークの充実	地域公共交通の充実	地域づくり支援課
	狭隘道路の拡幅整備	道路治水課
	国道・県道における歩行者空間の創出	都市計画課
	生活道路の安全対策	防災安全課・道路治水課
方針3-① 新たな産業ゾーンの検討	国道17号熊谷バイパス沿道における産業系土地利用の見直し	都市計画課・農政課・商工観光課・企画政策課・開発指導課
方針3-② 地域産業の活性化や観光交流を促進する広域幹線道路網の充実	熊谷渋川連絡道路及び上尾道路の整備促進	都市計画課
方針3-③ 地域資源をめぐる自転車交通環境の整備	サイクリングロードの整備	企画政策課・道路治水課・管理課
	ぎょうだ歴史ロマンの道整備	文化財保護課

南東部地域構想図

